

No.138  
2002.  
7.31

# 岐阜の博物館

編集兼発行  
〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111  
振替名古屋637909

## これからの博物館に求められること

岐阜県博物館協会会長  
高山市長

土野 守



現在社会において、博物館に求められるニーズは多様化しています。高齢化、少子化など様々な社会問題に対応しつつも、博物館本来の役割

を果たし、生涯学習活動の拠点としての役割を担っていけるよう、博物館にこれから何が求められていくのかを考えていく必要があります。

まず、すべての人々がともに等しく学び、体験し、楽しむことができる、ひとにやさしいバリアフリー施設の博物館をめざしていくことが大切だと考えます。段差をなくしスロープを設置するなどの物理的障壁の除去を中心とした施設の改修に加え、音声による演出や解説、実際に触れてみるができる展示など五感で感じ、学ぶことができる体験型の展示方法を多用することが必要です。また職員やボランティアによる適切な対応やケアの徹底など、受け入れる側の体制を見直し、職員ひとりひとりの意識を高めていくことも重要で、障害者や高齢者の目からみた視点でのハード、ソフト両面の充実が今後さらに博物館へ求められます。

次に、今年度からはじまった学校週五日制に対応した博物館のありかたを模索していくことも今後の重要な課題です。土日を

家族や友人と有意義に過ごす場としての「開かれた博物館」をいかに企画し、運営していくか。地域コミュニティに溶け込んだ博物館を目指し、広く児童・生徒や地元の人たちとともに考え、進めていくことが必要となります。こうした生涯学習活動を通じて、家族、町内会などの近年、希薄になりつつあるといわれる人と人との「きずな」を再確認し、深めていく場となればすばらしいことだと思います。また、学校での新しい教科「総合的学習の時間」の実施にあたっては、学校、教育委員会との連携を密にし、教育普及活動に力を注ぎ、博物館が各々の個性を活かして、児童・生徒が興味を持ち、楽しんで学ぶことができるメニューを設けていくことが求められます。

課題はまさに山積みですが、こうした一連の取り組みがより魅力的な博物館への成長を促し、入館者の満足度を高めていくことになるでしょう。そして集客力が強まり、博物館の運営自体を下支えするだけでなく、様々なかたちで地域に還元されていくのではないのでしょうか。以上のような博物館と地域との密接なポジティブ・フィードバック（好循環）が育っていくことを切に望みます。

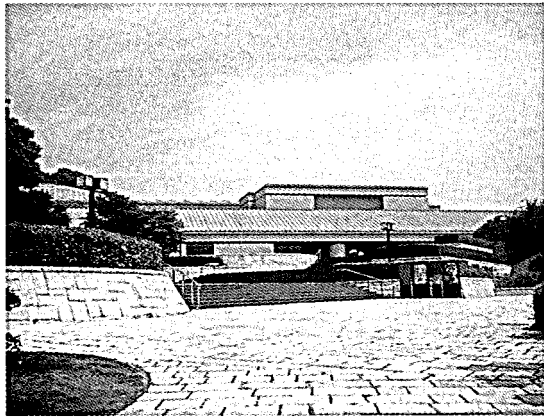
平成14年度東海地区博物館連絡協議会

## 「日本博物館協会東海支部総会に出席して」

日時：平成14年7月4日（木）～5日（金）

会場：静岡県立美術館講堂

参加：静岡、愛知、山梨、神奈川、岐阜の5県から92名（本県からは14名）



（東海地区博物館連絡協議会会長挨拶）

吉岡健二郎氏から、美術館や博物館は、西洋で発達し、我が国では明治以降に整備され、日が浅い。現在、私達の生活に定着したかどうか問われている。経済状況の悪化から、博物館の運営も楽観をゆるさない状況であるが、地域との連携を図り、今後の活動を切り開いていきたいと強調されました。

（来賓祝辞）

静岡県教委文化課参事山本昇平氏から、静岡県には美術館は多くあるが、歴史系・自然系の博物館はない。今後設置を考えているので協力をあおぎたい。また、代読された教育長祝辞の中に、文化芸術振興法が定められ、美術館、博物館、図書館等の充実がうたわれている。今後生涯学習の場としての意義や学校週5日制に伴い、益々博物館の意義は高まっていくであろうとの話がありました。

続いて日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏により、日本博物館協会の主要事業と最近の動向について話され、

①国際博物館会議（ICOM：イコム）は、1977年以来、5月18日を国際博物館の日と定め、毎年テーマを決めて、各種記念行事を同日を中心として展開することを呼びかけている。また、今年度は4月末から5月にかけて全国の84館で、記念行事を開催したり、入館料を無料にしたり、あるいは県の博物館協会や地域支部単位で団体記念行事を行った。

②博物館の基準・評価に関わる取り組みの経緯と、英米の登録評価の例示。

③やまびこネット（<http://www.j-muse.or.jp/>）の開設や各博物館による学校への学習支援の状況、「総合的な学習の時間」への対応や実験・実技、体験活動の充実について。

④独立法人となった国立博物館、国立美術館、国立科学博物館の例。管理委託について、都道府県・指定都市、市・区の順で公立博物館の管理運営団体への委託の比率が高く、町村ではほとんど見られず、開館日が新しい館ほど委託の度合いが高いという調査結果。

⑤文化芸術の振興を図るための基本的な法律として、文化芸術の振興に当たっての基本理念、国や地方公共団体の責務、文化芸術の振興に関する基本方針の策定、基本的施策を定めた「文化芸術振興基本法」が平成13年12月7日に施行された。

⑥日本博物館協会が行った入館者数調査に対し、平成11、12の両年度にわたって設置者別、館種別いずれにおいても減少しており、特に総合博物館の減少が著しい。

との話がありました。



（講演会）

静岡市立商業高等学校校長中村羊一郎氏により「東アジアの茶文化」をテーマにして、東アジア共通の植物・食材である「茶」を文化基盤のひとつとしてとらえた興味ある内容が講演されました。

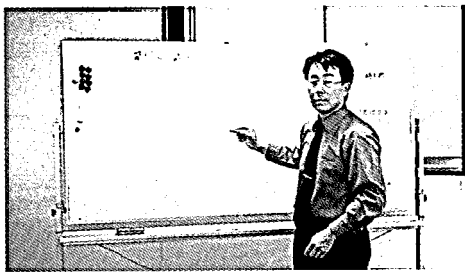
（岐阜県博物館協会事務局 若尾泰明）

## 「大垣市守屋多々志美術館の開館について」

期 日：平成14年6月13日（木）13：30～  
会 場：守屋多々志美術館他  
参加者：20名

今回の研修会は守屋多々志美術館、大垣城郷土博物館、大垣郷土館の三館を会場として実施されました。

始めに昨年の7月1日に開館した守屋多々志美術館の服部係長より、「美術館の開館について」と題して守屋氏の作品や人柄の魅力が伝わってくるお話をお聞きしました。



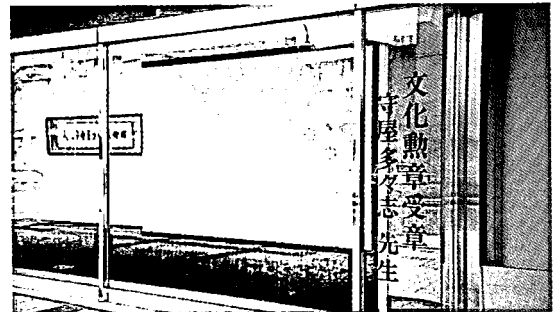
守屋氏は「少年時代いつも住吉灯台など大垣の歴史を身近かに感じながら育ったことと歴史画を描くようになったのは無縁ではない」とか「画家になる決心をしたのは現美術館の建物の上から朝日に輝く大垣の街を見て感動したから」とか故郷大垣への想いを語られているとのこと。

1912(大正元年)	大垣市船町で生まれる
1925(大正14年)	現大垣市立興文小学校卒業
1930(昭和5年)	現大垣北高等学校卒業 上京し前田青邨に師事する
1931(昭和6年)	現東京芸術大学日本画科入学
1943(昭和18年)	第30回院展に入選し院友に推挙される この年から雅号を「多々志」とする
：	
2001(平成13年)	大垣市へ作品3,300点を寄贈・寄託する

市の榮譽市民でもある守屋氏からの作品の寄贈・寄託の申し出に対して、単に感謝するだけでなく大垣市中心市街地活性化基本計画・大垣市第四次総合計画の一環として位置づけ、ここに守屋多々志美術館の建設を立ち上げられました。

折も折昨年の11月3日守屋氏が文化勲章を受章されましたので、現在その記念展として歴史画の中から女性を描いた作品を展示されています。参加者も格調の高い画を落ち着いた雰囲気鑑賞させていただきました。

今後は文化都市大垣の文化・教育の普及に貢献する場としての活躍を期待して次の会場へ移動しました。



大垣城と郷土館は大垣市教育委員会の鈴木主任指導主事にご案内をいただきました。城のまわりには沢山の碑や銅像があり、それらについて有意義な説明を受けました。大垣の歴史の深さをあらためて認識しました。城内は改修されて、整然と展示されていました。大垣城の由来、関ヶ原の戦い、戸田藩の歴史など大垣が戦国時代や江戸時代軍事・経済上の重要地であったことが理解できました。



郷土館は戸田侯入城350年の記念事業として、大垣市指定の重要文化財旧戸田鋭之助邸に開館したものです。歴代大垣藩主戸田侯の顕彰を中心に郷土の歴史的風土・生い立ちがよく分かりました。鮮やかな緑豊かな庭は、落ち着いた気持ちで展示を味わうことが出来ました。



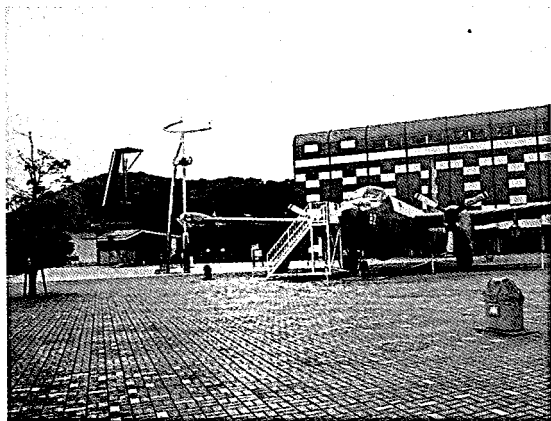
さすが江戸時代城下町であったということが痛感される半日の研修でした。

(機関紙委員 海津町歴史民族資料館 瀬古尹宏)

## かかみがはら航空宇宙博物館

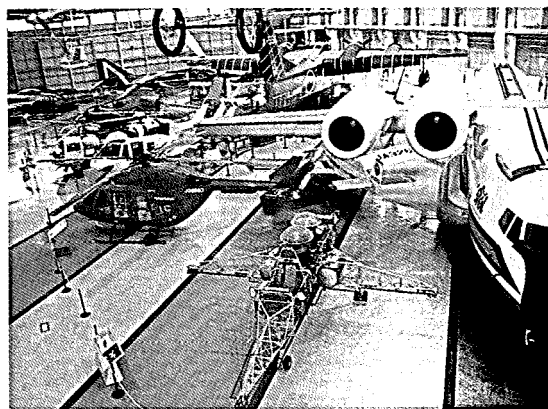
〒504-0924 各務原市下切町5丁目1番地  
TEL (0583) 86-8500

各務原市のほぼ中央に広がる航空自衛隊岐阜基地。大正6年(1917)に作られたこの各務原飛行場は現存する日本最古の飛行場であり、現在も日本の航空宇宙産業開発を支えている場所の一つです。ここに隣接する「かかみがはら航空宇宙博物館」はオープンして7年目を迎え、快晴の空を思わせる青い建物を背景に、屋外展示されている飛行機がならんでいます。



博物館建物とP-2J対潜哨戒機

展示テーマは①日本における航空機の歴史、②飛行への挑戦の歴史とそのメカニズム、③宇宙への挑戦と開発、④各務原ゆかりの実験機と国産機の実機展示及び修復工房、⑤飛行体験館の5つです。ヘリコプター等の操縦桿を動かして飛行の仕組みを学んだり、自分でデザインした紙飛行機を製作するなど、参加・体験に重点を置いた構成となっているのがこの館の特徴です。教育活動も夏休みに行われる子供向け水ロケット製作教室をはじめ、実際に乗ることのできる軽飛行機を市民が共同製作するなど、夢を持ち現実に近づけることをめざす内容です。さらに、修復工房や模擬操縦の指導に航空機製作に携わった人たちが100人以上ボランティアとして活躍しているほか、日本宇宙少年団の活動拠点となるなど、航空科学に関心を持つ人たちが自主的に活動する場所でもあります。



実機展示風景

実機を間近に見、自由に写真撮影できる点も好評で、幅広い年齢層の来館者があります。飛行機形の遊具や5基の実機が展示されている多目的広場と博物館内のカフェレストラン、飛行機グッズがたくさん並んだミュージアムショップは無料で利用することができ、館内・外で家族みんなが1日楽しめることでしょう。



ミュージアムショップ

【交通】名鉄各務原飛行場駅から各務原ふれあいバス約15分

「航空宇宙博物館前」下車

【駐車場】700台(無料)

【開館時間】9:30~16:30(入館は16:00まで)

【休館日】火曜日(祝日の場合はその翌日、8月は休まず開館)  
年末年始

【観覧料】大人 1,000円  
60才以上・高校生 700円  
小・中学生 500円

(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 稲川由利子)